

# 保健体育科学習指導案

日 時	令和7年10月15日
場 所	喜界中学校体育館
対 象	2年2組 26名
指導者	教諭 尾上 寿子

## 1 単 元 球 技 ゴール型 (バスケットボール)

### 2 単元について

#### (1) 球 技 ゴール型 (バスケットボール) の特性

球技は、ゴール型やネット型、ベースボール型などがあり、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。バスケットボールは、「ゴール型」の運動であり、ドリブルやパス、シュートなどのボール操作と空間に走り込むなどのボールを持たないときの動きを通じて、シュートを放ち、一定時間内に相手より多くの得点を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、フェアプレイを重んじ、互いに協力しながら、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとするなどの意欲を育てると共に、個々の役割を果たし、自己の健康や安全に気を配ることができる運動である。

さらに、バスケットボールの特性である、ボール操作と空間に走り込むなどの動きを通じて、学習者が主体的に自己の課題を発見し、仲間と協働して解決する力を育むことを目指し、技能習得だけでなく、戦術的思考や振り返りを通じて、学習課題への取り組み方を工夫できるようにしたり、他者にわかりやすく伝えたりすることにより、学習者の思考力・判断力・表現力を高められる単元である。

#### (2) 生徒の側から見た特性

本学級の生徒は運動に積極的に取り組むことができ、どの単元においても意欲的に活動ができる。ペア学習やグループ学習にも意欲的に取り組むことができるため、協働学習に主体的に取り組む、互いに学習を深めることができる。

運動に関するアンケート結果から、「体を動かすことが好き」と肯定的に答える生徒が82%となっており、「球技が好き」と答えた生徒は75%であった。しかし、「バスケットボールが得意」と答えた生徒は全体の12.5%であり、苦手な理由としては、ドリブルやパス、シュートなどのボール操作に苦手意識があったり、大きなボールに恐怖心を感じたりしている生徒が多いことが分かった。

第1学年時には、基本的なボール操作について学習しているが、練習ではボール操作をすることができても、ゲームの中で得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことやパスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くなどの技能の習得につまずきを感じている。

#### (3) 指導観

第2学年では、第1学年で学習した「ボール操作」の基礎基本をもとに、攻撃面の学習を重視し、マークされていない味方にパスを出すことや得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことなどのより実践的な場面を想定する。そこで、生徒が思考・判断を繰り返しながらよりよく上達できるよう、練習方法を選択させていきたい。基本的な技能の定着を図るためには、段階的な指導が求められる。基本的なシュートやパス、ドリブルの練習を繰り返し行わせていく。また、ゲーム形式で楽しみながら学習を展開することで、ボールとゴールが同時に見える場所に立つことや、パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことなど自己のチームの課題を明らかにし、効果的な練習方法を選択し、実践していくことが重要となる。さらに、ペアやグループでの活動を通じて協働的に学び、互いに教え合い、考え合うことで課題解決に繋げる。その際、学習プリントや掲示物、ICT(タブレット等)を活用し、思考力・判断力・表現力を高めながら、教師は「問いかけ」「振り返り」「選択の

場面」を意図的に設け、学習者の主体的な思考と行動を促すファシリテーターとして関わる。技能指導だけでなく、振り返り活動を通じて、学習者が自らの学びを言語化し、次の行動につなげる支援をする。

### 3 単元の目標

#### (1) 知識及び技能

技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、ドリブルやパスなどのボール操作やゴール前の空いている場所に動くなど空間に走り込む動きができるようにする。

#### (2) 思考力、判断力、表現力等

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

#### (3) 学びに向かう力、人間性等

球技に積極的に取り組むとともに、体力や技能の程度、性別など一人一人の違いを認めながら、学習課題の解決に向けて、仲間の学習を援助することができるようにする。

### 4 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
<p>① 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書きだしたりしている。</p> <p>② 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることを理解している。</p> <p>③ バスケットボールでは、主として巧緻性、敏捷性、スピード、筋持久力などが高められることを理解している。</p>	<p>① パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。</p> <p>② マークされていない味方や得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ ゴール方向に守備がない位置でシュートを打つことができる。</p>	<p>① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>② 提供された練習方法から、自己やチーム課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>③ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームの方法を見つけ、仲間に伝えている。</p>	<p>① 課題解決に向けて、バスケットボールの学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>② マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>③ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>④ 健康・安全に留意している。</p>

## 5 指導と評価の計画

	時	1	2	3	4	5	6(本時)	7	8	
学習の流れ	0	オリエンテーション ・技術の名称 ・高まる体力 ・授業の進め方 ・安全上の留意点 ・多様な関わり方 ・チーム分け ○学習目標・学習計画の確認 ○自己やチームの課題把握・課題設定	あいさつ・健康観察・KOSTレ（体操の要素を取り入れながら準備運動を行う） 本時のねらいの確認							
	10		チームミーティング							
	20		ドリブルシュート	スキルアップトレーニング（パス・シュート・2対2・2対1）						
	30			パスゲーム	チーム練習	カットインプレー	(5対3)	チーム練習 サークルインゲーム	まとめゲーム	ハーフコートゲーム
	40		四角パス							
50	片付け・整理運動・学習の振り返り・次時の確認									
評価		1	2	3	4	5	6	7	8	
	知識	①③				②				
	技能				②		①	③		
	思・判・表 態度		③	①		②			③	①
単元の評価規準	知識	① 集団対集団，個人対個人で攻防を展開しながら，運動の特性や成り立ちについて理解している。 ② 対戦相手との競争において，技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることを理解している。 ③ バasketボールでは，主として巧緻性，敏捷性，スピード，全身持久力などが高められることを理解している。								
	技能	① パスを受けるために，ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ② マークされていない味方や得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ ゴール方向に守備がない位置でシュートを打つことができる。								
	思考 判断 表現	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 提供された練習方法から，自己やチーム課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③ 体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習やゲームの方法を見つけ，仲間に伝えている。								
	態度	① 課題解決に向けて，Basketボールの学習に積極的に取り組もうとしている。 ② マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして，フェアなプレイを守ろうとしている。 ③ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ④ 健康・安全に留意している。								

## 6 本時の実際（6／8）

### (1) 目標

パスを受けるために、ゴール付近の空いている空間に走り込むことができる。

【知識及び技能】

### (2) 評価

評価規準		知識・技能
		パスを受けるために、ゴール付近の空いている空間に走り込むことができる。
判断の目安	「十分満足できる」 状況（A）	ゴール付近の空間に走り込み、パスを受けることができる。
	「おおむね満足できる」 状況（B）	ゴール付近の空間に走りこむことができる。
	「努力を要する」 状況（C）	「おおむね満足できる」状況（B）を満たしていない。

### (3) 授業デザイン上の工夫

本校の工夫として以下の事項を掲げる

#### ア <一校一改善>より

「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善

～学習者主体・学び合い・振り返り～

#### イ 学習者主体【目標の明確化】

主体的に授業に取り組める興味・関心をもたせる導入の工夫として、ウォーミングアップや基礎練習の中においてペアで目標の明確化を図り、互いのよさを認め合いながら興味や関心を引き出せるようにする。視点1

#### ウ 学び合い【山場の工夫】

チーム練習での役割分担や生徒同士のフィードバックタイムの設定をする。視点2

#### エ 振り返り【確かめ・見届け】

自分やチームの動きについて「できたこと・課題・今後の目標」など自己または相互評価する時間をとり、自分たちの言葉で学んだことや感じたことをシートにまとめ、発表する。視点3

## (4) 本時の展開

(★授業デザイン上の工夫 ●指導に生かす評価 ○記録に残す評価)

学習過程	時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点
あいさつ	1	1 整列, あいさつ, 出欠確認をする。	1-1 学習の場の安全確保のために, 用具, 練習場等の確認を行い, 授業を開始する。
準備運動 補強運動	5	2 KOSTレを行う。 準備運動および補強運動 ・グーパー ・ボール回し ・二人でさっさ ・ハンドリング腹筋 ・腕立てタッチ	1-2 あいさつ後, 生徒の出欠の確認, 健康状態を把握し, 見学者への指示をする。 2 バスケットボールに必要な動きやボール操作を取り入れた準備運動及び補強運動を行う。 ● 生徒の動きを観察し, 実際の動きに近づくようフィードバックする。 ★ ペアでトレーニングをしながら互いの課題や改善点が意識しやすいようにする。
課題別練習	2	3 前時の学習を振り返り, 本時の学習課題を確認する。 【学習課題】 ゴール付近の空間に走り込んで得点につなげるにはどんなことが大切だろうか。	3 学習課題を確認し, 本時の学習への見通しをもたせる。
	3	4 自己やチーム課題, ゲームの展開について確認する。	4-1 前時の振り返りや学習課題を踏まえたうえで自己やチームの課題を確認する。 ★ 仲間と関わり合いながら, 自チームの課題解決のための練習を自分たちで組み立てられるように, 練習メニューカードを活用する。
相互練習	8	5 スキルアップトレーニングを行う。(2分×4)	4-2 各チームの課題に応じたスキルアップトレーニングを選択する。 5 チームの課題に応じた練習をする。
	24	6 タスクゲームを行う。 【サークルインゲーム】 ・時間: 前半3分+後半3分 ・作戦タイム5分 ・人数: 5対3 ・得点設定 サークルに走りこんでシュート →4点 制限区域内からのシュート →2点 サークル・制限区域外からのシュート →1点	6-1 空間に走りこむ攻撃を重視した課題解決ができるようにアウトナンバーの場面を設定する。 6-2 ● 生徒の動きの変容を観察し, 称賛・激励する。 6-3 ● ボールを持たない時に空間へ走り込む動きができているか確認する。 6-4 ● チームで連携した攻撃ができているか確認する。
反省評価 課題把握	5	7 ゲームの内容を振り返り, チーム課題について振り返る。 【まとめ】 ゴール付近の空間に走り込んでパスを受けるためには, 視野を広げてタイミングを合わせるとよい。	7 ○ ゴール下での攻防や空間を使った動きを理解できているか確認する。 ★ 自分やチームの動きについて「できたこと・課題・今後の目標」など自己または相互評価して, 自分たちの言葉でまとめ, 発表する。
整理運動 おわり	2	8 次時への見通しを確認する。 9 よく使った身体部位のストレッチを行う。 10 健康観察, あいさつを行う。	8 次時への意欲をもたせる声掛けを行う。 9 ストレッチを行い身体の状態を確認する。 10 元気よくあいさつをさせる。

